

2019 年度版『核物質データポスター』の解説

2019 年 12 月 9 日

2019 年版は、いつもより半年遅れとなりましたが、その理由は、プルトニウム(民生用)保有量の自己申告(国際プルトニウム管理指針に基づく)について、一部の国(中国、英国、米国)の公表が遅れたためです。日本のデータは、既に 2018 年末のデータが公表されていますが、年代をそろえるために、2017 年末のデータでポスターを作成しました。

今年の特徴は、ほぼこれまでと同様で、以下の様にまとめられます。

1. 全体の核物質量は増加傾向にあり、昨年度に比べ、約 690 発分増加で、総計は 108,104 発分となっています。
2. 高濃縮ウランは、今年も減少傾向にあり、総量 1,340 トン (20,941 発分) となっています (昨年比 36 発分減少)。ただし、軍事用がインド、パキスタンなど一部で増加傾向にあります。民生用保有量は今年も減少しており、非核保有国の民生用高濃縮ウランの保有国の中で、ナイジェリアは研究用原子炉を、燃料を低濃縮ウランに転換し、不要となった高濃縮ウランは提供国の中国にすべて返還されたため、保有量がゼロとなりました。その結果、保有国は昨年の 14 か国から 13 か国に減少しました。
3. プルトニウムは、今年も増加傾向にあり、総量 523.0 トン (87,163 発分) となりました (昨年比 723 発分増加)。軍事用はインド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮が増産していると推定されており、約 0.5 トン増加となりました。民生用は引き続き増加傾向にあり、ロシア、英国、日本などの増量により、約 4.4 トンの増加となりました。民生用では、昨年まで在庫量を抱えていたドイツの保有量がゼロとなったのが注目されます。ドイツはプルトニウムを MOX 燃料に転換して消費し、国内の保有量をゼロにしました。(なお、日本については、2018 年末のデータがすでに公表されており、45.7 トンとなっています)。
4. 10 年前に比べると、高濃縮ウランについていえば、軍事用は 75 トン、非軍事用は 196 トン減少しました。一方、プルトニウムは、軍事用が 17 トン減少し、非軍事用が 41 トン増加しています。

以 上